

令和6年10月

神

意

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第404号

鹿屋市 共栄町 20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「地域の力を教育に」

1 はじめに

周りを山と田に囲まれ、自然豊かな鶴峰小学校。小規模校のよさをいかしながら、「地域とともにある学校」を目指して、日々教育活動に取り組んでいます。

昭和39年には489名、平成元年には170名という児童数の記録が残っています。令和6年度の児童数は17名。肝付町出身の私にとって、「すぐ隣の吾平町にある大きな学校」というイメージがあったので、赴任したときには、児童数の少なさに驚きました。

児童も職員も全員がお互いをよく知り、一人一人にきめ細かな関わりができる一方で、児童の規範意識の醸成や対人関係スキルの育成が必要だと感じました。これらはやはり、人との関わりの中で育まれるものだと思います、教育活動の中に、地域の様々な人々とふれあう機会を多く取り入れることにしました。

2 地域住民との交流を深める活動

○ つるみね校区ふれあいデー

5月中旬頃「つるみね校区ふれあいデー」を実施しています。地域の方々に招いて、学校紹介をしたり、風船バレーをしたりして交流する活動です。子どもたちがクイズを出すと、積極的に手を上げて答えてくださる地域の方々。風船バレーでは、ルールを守



らない子どもに注意してくださったり、風船を譲った子どもを褒めてくださったりしました。自分と年齢も立場も違う人と関わることで、相手のことを考える意識が芽生えたように思います。

○ 運動会

昨年の秋の運動会では、校区全体に参加を呼びかけました。当日は、児童数の何倍もの人が

鹿屋市立鶴峰小学校 校長 田中かおり

集まってくださり、子どもたちと一緒に競技に参加してくださいました。コロナ禍を経て、「久しぶりに学校に来ました。

ずっと来たかったんです。」とうれしそうに語ってくださる方も。学校を大切に思ってくださいる地域の方々温かさに胸を打たれました。子どもたちも、たくさんの拍手や声援に後押しされながら、自信をもって精一杯がんばってくれました。



○ つるみねフェスティバル

学習の成果を舞台上で発表したり、作品を展示したりする「つるみねフェスティバル」。舞台発表の部には、各町内会の方々も出場して盛り上げてくださっています。昨年度は鶴峰西地区「立元集落の臼おこし」、鶴峰東地区「紙芝居：飴屋敷〜うがやくん誕生物語〜」、鶴峰中地区



「長生きサンバ」と、地域の人や歴史を学ぶよい機会となりました。子どもたちも、「聞く人にきちんと伝わるように発表する」ために、一生懸命練習をがんばります。「相手意識」をもたせるためにも、地域の方々の参加はたいへんありがたいです。

3 おわりに

このように、地域の方々とのふれあう機会は、子どもたちにとって多くの学びがあります。また、これらの活動を機に、声をかけてもらうようになり、手紙をいただいたり、絆ができていきます。これからも、学校と地域でタッグを組んで、子どもたちを見守り、共に育てていくことができたらと思っています。